

立山・奥大日岳 山行(OB会)



奥大日岳頂上にて

期 間：2011年5月15日(日)～17日(火)

種 別：例山(OB)

場 所：北アルプス 立山・奥大日岳

メンバー：L鳥切昇治、田辺浩二、横山高明、大和義孝(記録)

コースタイム：

5月15日(日) 快晴

鳥切車にて鳥切宅 4:20=大和宅 4:30=東名厚木 IC=東名秦野中井バス停 5:20
=御殿場 IC 5:40=東富士五湖道路=中央道大月 JC 6:13=7:25 諏訪湖 SA 7:51
=豊科 IC 8:13=8:37 セブンイレブン(大町) 8:42=9:05 扇沢駐車場 9:30-
9:45 黒部ダム～黒部湖 10:10-10:15 黒部平 10:30-10:35 大観峰 10:45-
10:51 室堂 11:07～11:45 雷鳥荘 12:53～室堂「雪の大谷」見学～14:30 雷鳥荘(泊)
(鳥切雷鳥沢スキー) 雷鳥荘 12:53～14:28 別山乗越 14:47～14:53 雷鳥沢キャン
プ場～15:15 雷鳥荘

5月16日(月) 晴

雷鳥荘 7:13～室堂乗越手前の稜線(2390m) 8:05～室堂乗越 8:15～ピーク
約2450m(P1と仮称) 8:33～8:46 ピーク 2511m(P2と仮称) 手前下 9:00～
P2 9:13～ピーク 2611m(P3と仮称) 9:55～10:10 奥大日岳(2605.9m) 頂上
10:45～カガミ谷乗越(P2とP3の鞍部) 11:25～P2 11:43～P1 12:08～
標高2390m付近 12:30～13:00 雷鳥沢キャンプ場下 13:15～13:45 雷鳥荘(泊)
(14:10 鳥さんと合流)
(鳥切帰路別行動雷鳥沢スキー) 室堂乗越 12:38～13:37 別山乗越 13:50～13:56
キャンプ場～(14:10 大和さん達と合流)～14:15 雷鳥荘

5月17日(火) 小雪後晴

雷鳥荘 8:00～室堂ターミナル前 8:32～室堂山荘 8:42～8:50 休憩 9:02～
9:50 一の越 10:10～10:43 夏道入り口 10:50～11:20 東一の越 11:50～
14:15 黒部平 14:40-黒部湖 14:45～黒部ダム 15:05-15:20 扇沢駐車場
15:38=中央豊科 IC=諏訪湖 SA(15分休憩)=相模湖 IC 18:25=本厚木駅
19:20頃=大和宅 20:20=鳥切宅 20:30

記録：(なお、鳥切さんのスキー記録も参照下さい)

5月15日(日)快晴 横浜→扇沢→立山

田辺さんが自車から鳥切車に乗り換え、夜明けの鳥切宅を出発、大和を拾い、戸沢橋経由で厚木ICから東名高速に入り、横山さんと待合せの東名秦野中井バス停に向かい、バス停で横山さんを乗せ御殿場ICに急ぐ、途中、大井松田付近からの富士山が素晴らしい。5時40分御殿場ICで東名高速を降り、一般道から東富士五湖道路経由中央道に入り、諏訪湖SA

で朝食を摂る。長野道の豊科ICで高速道を降りる。高瀬川沿いの道を立山アルペンルートの玄関口である扇沢に向かって走る。途中昼食弁当購入のためコンビニに寄る。

安曇野の付近で14,5人の人が写真を撮っている。菜の花畑の向こう側に田植えが終わったばかりの田んぼに水が張っており、そこに常念岳が映っている。常念岳の撮影スポットらしい。安曇野は現在放映中の朝のNHK連続テレビ小説「おひさま」の舞台で人気である。



室堂ターミナル付近の賑わい

扇沢付近は白樺や、ぶなの木の新芽が快晴の青い空に映えて美

しい。9時5分に扇沢の駐車場に着く、日曜の為か駐車場は7、8割ぐらゐが埋まっている。一番上の有料駐車に止める。

扇沢から黒部平までの往復券(3,390円/人)を買い、9時30分発のトロリーバスに乗る、トロリーバスは4,5台が同時に出発する、満席で我々は立って行った、中国の観光客が多い、15分ほどで黒部ダムに着く、そこから黒部ダムの堰堤の上を10分ほど歩いてトンネルの中の黒部ケーブルカーの黒部湖駅着く。黒部ケーブルカーは全線トンネルの中である。10時10分発のケーブルに乗り、5分ほどで黒部平に着く、帰りはここまで歩くことにしているので室堂までの片道切符を(3,030円/人)買う、10時30分発の超満員の立山ロープウェイに乗る。



室堂にて奥大日岳をバックに

ロープウェイから左前方を見るとタンボ沢をスキーで下る10人程が見える。5分ほどで大観峰駅に着き、10時45分発の立山トンネルトロリーバスで室堂に10時51分に着く。室堂は観光客で溢れている大部分は中国人である。雪は多いところで16mほど積り少ないところでも10mほどある。雪は腐っているが適度にしまつて歩き易い。雷鳥荘へと下る。

鳥さんはスキーに履き替え先に雷鳥荘に行く。我々は雷鳥の保護と道路標示を兼ねたロ



雷鳥荘

ープに沿って進む、少し水面の見えるミクリガ池を見ながらミクリガ池温泉の脇をとおり少し急な坂を下り左に大きく回り込むと雷鳥荘である。



雪の大谷に行くバス

部屋に荷物を置き、我々、田辺さん、横山さん、大和の三人は「雪の大谷」に、鳥切さんは別山乗越からのスキー滑降に行く、我々は当初地獄谷を見てから「雪の大谷」に行く予定がガス噴出

のため立ち入り禁止なので直接「雪の大

谷」へ行くことにした。「雪の大谷」とはバスを通すために除雪したバス道路のことで幅 10m ぐらいの道路の両側に 15,6m の雪の壁が出来て谷状になっている。

観光客はバスターミナルから 3~400m ぐらいの道路の片側を歩行者専用にした道を「雪の大谷ウォーク」と称し見物する。途中壁を抜いたところがあり、そこから剣岳が眺望でき、記念写真のロケーションとなっている。我々も観光客に混じり記念写真を撮ったり、記念写真を撮ってあげたりし、「雪の大谷ウォーク」を堪能する。雷鳥荘には 14 時 30 分に戻る。

雷鳥荘の前で雷鳥沢の左側の峰に登る人、雷鳥沢や雷鳥坂をスキーで滑る人を眺めながら鳥さんを探す余りにも遠く分ならず、鳥さんの帰りを待つ、また明日登る稜線へのルートを探る、稜線へ出る斜面は雪が割れているところが多くあるが雷鳥平の少し下流あたりからの斜面を登ると雪割と雪割れの間の斜面に出れるルートがある。目標にする雪から出て居る榛松の位置を目に焼き付ける。



雪壁を崩した記念撮影スポットバックに剣岳

雷鳥荘の前から雷鳥沢キャンプ場まで標高 200 メートルぐらいの T バーリフト

(バーを体の横から引っ掛けて引っ張り上げる形の簡易リフト) が設置されておりそれを利用しボーダーやスキーが滑っているのを見ている。暫くすると鳥さんもこのリフトで上がってきた。それからみんなで雷鳥荘の中に入る。宿は浴衣、歯ブラシが付いている、山登りには贅沢である。風呂は掃除時間を除いて 24 時間入れる。温泉は乳白色である、18 時から食堂で、宿泊客の 40 人ほどと一緒に食事をする。料理は一般の旅館と変わりなく 6,7 品付いた。明日の天候が良いことを祈り就寝するが、床暖房が暑くて眠れない。



雪の大谷ウォークの終点



雪の大谷で横山さんと田辺さん

5月16日(月)(晴) 雷鳥荘→奥大日岳→雷鳥荘



朝、6時30分、バイキングの食事をする。天気は上々である、鳥さんはスキーを履き他の三人はアイゼンを付け、田辺、横山さんはそれぞれ2本のストックを、大和はピッケルを持ち、7時13分雷鳥荘を出発する。

雷鳥荘を出て急な斜面を雷鳥保護のためのロープ沿いに雷鳥沢キャンプ場近くまで下る。雪は凍



雷鳥荘から奥大日岳を望む

ってなく、また腐っても無く歩くのに丁度良い硬さである。急な斜面を下り、大きく左に曲がり、沢沿いに下流へ歩き雷鳥平より少し下流で雪に覆われた沢を渡り昨日目印にしていた這松の上部を目指し急な斜面を雪玉が落ちて作った筋状の跡に添い直登する。

傾斜は 35.度程度ある。横山さんがトップで雪を蹴り込み進む、途中で大和がトップを交代し



いざ出発、雷鳥荘前で、



雷鳥沢キャンプ場付近からの登攀ルート

目指していた這松の上部に出ると傾斜は緩くなり左へとトラバース気味に登ると新室堂乗越と室堂乗越の中間の標高 2390m の下の稜線に出る。そこから稜線上を室堂乗越へ下ると鳥さんがスキーで登って来る、室堂乗越で鳥さんと一旦合流しのちまた別れて登る。(室堂乗越から奥大日岳への登りは顕著な 3 つのピークを越えて行く、最初の標高約 2450m のピークを P1、次の標高 2511m のピークを P2、三つ目のピークの標高 2611m を P3 と仮称し説明する。

なお奥大日岳の標高は P3 よりやや低い標高 2605.9m である。)

我々 3 人は稜線上を P1 めざし直登するかなり急ではあるがトレースがあるので登りやすい。P1 を登り終わると平らな稜線になる、平らな稜線を暫く行くと P2 の登りになる、ここで少し休憩し、風が出てきたので雨具を着る。P2 は稜線の右側に雪庇が出てお



最初の急坂を登る田辺さん、横山さん

り稜線上は危険なので左側斜面に回りこみ登る、ここで上から下ってくる単独行の人に合う、雪庇が多く出ているので注意するようアドバイスを受ける、P2 は頂には立たずピークの少し下を通ると急な下りとなり、カガミ谷乗越に着く、狭い鞍部である、ここから P3 近くまで左側斜面に這松が出ている。ふみ跡は這松の右の雪上に有る、そこを暫く登ると、這松の右雪面が急に狭くなり雪面の右側はカガミ谷への絶壁である、危ないと思い這松を左側にトラバースし這松左側の P3 の斜面に出る、この斜面は称名川に落ち込んで急で高度感があり、風が強い為か、雪がクラスとしている、蹴りこんで足場をつくり慎重に登る。5,60m ぐらい登ると傾斜もゆるくなり P3 近くに出る。



奥大日岳から称名川に落ち込む斜面をスキーで登る鳥さん

ここから奥大日岳まではほぼ平な峰で稜線の少し左側を歩き奥大日岳に10時10分に着く、三角点は雪が無く岩がむき出しになっていた。ここから360度の見晴しは素晴らしい。



P3から奥大日岳頂上に向かう

北東側には剣岳、南側遠くには槍ヶ岳が見える。記念写真を撮ったり、食事をし30分ほど休んだ後、下る。P3の下りは這松の左側(カガミ谷側)の雪面を下る、登るとき危険と思った狭い雪面は上から見るとしっかりした岩の上に雪があることが分かりその狭い雪面を下った。カガミ谷乗越近くで中高年の男女ペアに会う、聞けば先に行った鳥さんに会い「年寄が登っている」と登る様進められ登ってきたとのこと。カガミ谷乗越まで下りそこから急な登りを登る、

鳥さんがP2手前で待っていてくれてP2と一緒に登り、P1へ下る。

P1から鳥さんと別れ登ってきたトレース跡を室堂乗越へと下る。鳥さんは我々と分かれ別山乗越に向かう、室堂乗越から朝登ってきた跡を探すが分からない、また急な下りであるので、少し登り標高2390mの右斜面をトラバースし新室堂乗越への夏道に近いふみ跡にでると標識があり、標識と踏み跡をたどり雷鳥沢に出て雪に埋もれた沢を渡



奥大日岳頂上にて剣岳をバックに

り雷鳥沢キャンプ場下に出る、ここで一休みし、急な斜面に設置しているT



P2とP1の間の鞍部からP1に向かう3人

バーリフトの右側を登る、このきつい登りを登りきると雷鳥荘でありホットする。13時45分である。ここで雷鳥沢方面を見ながら鳥さんを待つ。すると一人雷鳥沢を優雅に滑ってくる人が見える、それが鳥さんである。そして暫くしてTバーリフトから降り、登ってくる鳥さんを迎え、雷鳥荘に入る。時刻は14:15である。雷鳥荘の管理人に明日の天気を聞くと午前中は小雪で午後からは晴れそうとのこと、東一の越から黒部平経由で帰るか、それとも室堂からバスに乗り帰るか迷うところである。明日の朝判断することにする。

東一の越から黒部平まで歩き帰ると交

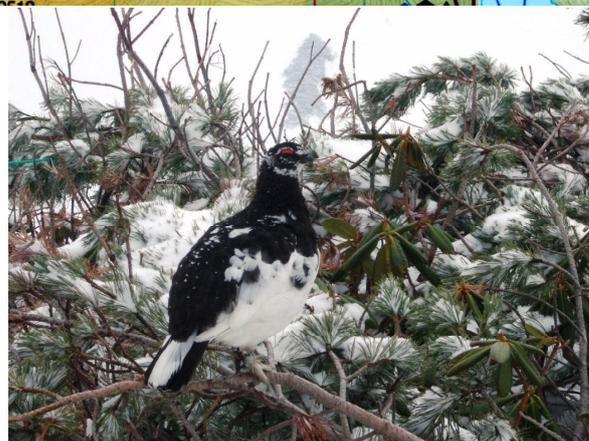
通費約3000円/人得する。

5月17日(火) 小雪のち晴 雷鳥荘→東一ノ越→黒部平→扇沢→横浜

朝起きると小雪が降りガスで視界が悪い。7時頃に食事が終わりテレビの天気予報を見る、また、フロントの前に張り出している天気図を見、管理人に天気具合を聞く、朝のうちは雪、雨で天気は悪いが昼ごろから晴れて来るとの事。一の越から黒部平に行くことにする。



出発時間を1時間ほど遅らせる。雪も止み時々ガスも晴れ明るくなってきた。8時に雷鳥荘を出発する。雪は比較的柔らかいのでつぼ足で鳥さんは、スキーを背負い、トップを歩く。ミクリガ池温泉の脇を通り、室



堂ターミナル方面に向かいロープ沿って登る、昨夜来の雪で3~5cm積もっている。ミクリガ池温泉近くの這松に背中は黒く半分夏毛に生え変わった雷鳥を見ながら進む、室堂ターミナル付近から左に浄土山の麓を巻くように

一の越に着く

一の越へと少しずつ登って行く。4,50mぐらい前をスキーを履いた2人が登って行く、浄土山を回りこむと一の越山荘が見え出しこの頃になると時々雲が切れ薄日が差し、雄山の頂上が見える。暫くして浄土山と雄山に挟まれた鞍部の一の越に向かい急坂を直登する。9時50分一の越に着く。一の越は風が強く寒い今にも雪が降りそうである。



夏道を目指し御山谷を下る

一の越から御山谷を見ると谷は雪で覆われているが左側の雄山からの峰は雪が無く岩が出ている。



一の越山荘の管理人に東一の越への道を尋ねると、親切に外に出てきて御山谷の下の方の左側の山肌に見える夏道を教えてくれる。当初予定では雄山を往復する予定で有ったが時間も遅いので断念し東一ノ越に向う。ここで田辺さん、横山さんはアイゼンを着ける、大和はつぼ足で、鳥さんはスキーを背負い、つぼ足で、10時10分、夏道を目指し御山谷の雪渓を下る、真っ直ぐ下るときは良いが夏道近くで雪渓をトラバース気味になるとしっか

夏道に行く

り蹴り込まないと滑る。トップに行く鳥さんとは大分離れる。35分ほどで雪渓を下りきり夏道の入口に着く、鳥さんが待っていてくれる。一休みし夏道上を歩く、夏道は道が出ている所と雪に覆われている所が交互に出るほぼ水平な道である。11時20分東一の越に着く、小雪が舞い、風があり寒い。小雪で薄暗い中遠くに黒部ダム、ロープウェイの黒部平駅が確認できる。昼食を摂り、鳥さんはスキーに履き替え、他の三人はアイ



東一ノ越は向うに見える鞍部

ゼンを着け11時50分出発する、鳥さんは直ぐにが見えなくなる、われわれは降り口が急斜面なので少し右側にトラし、その後、急斜面を真っ直ぐ下る。この頃になるとガスに覆われ視界は2,30mである、急斜面を下り終わりやや傾斜が緩くなりスキーのシュプールを頼りに進むが雪が積もりシュプールが分からなくなる、視界は3,4mで雷は耳元で鳴り怖くなる、タンボ平の右下部に這入らないように左、左とトラバースしてゆく、いくつものデブリ



小雪の降る東一ノ越にて

を越える、しかしガスは明るいのでその内晴れる望を抱かせる、暫く晴れるまで待とうと言いながら、待っているなら少しでも稼いだ方がよいと思いガスの中を歩く、すると左側に山肌が見える、この山すそに沿って下れば黒部平に着くと確信し安心する。そのうちガスが薄くなり頭上にロープウェイのロープが見えほっとする。



東一ノ越からタンボ沢を下る



ガスが晴れ頭上にロープ
ウェイが見える

雷も鳴り止み雪も止み急に明るくなる晴れ間が見えると下のほうに黒部平の駅が見える。大部左側に寄っていて遠周りしている。ガスの中では仕方の無いことかと思う。天気は晴れ素晴らしい眺めである。一気に下へ下りタンボ平に出る。下り終わると鳥さんが迎えに来てくれた、そこから 4,50 mを登ると黒部平駅である。鳥さんは 2 時間ほど心配しながら待っていた。振り返ると我々のトレースが大観峰駅の下のほうに大トラバースしているの見える。

晴れていれば 1 時間ぐらいで下れると思っていたが 2 時間半ほど掛かった。駅で鳥さんに貰ったコーラが旨かった。

後は黒部平駅からケーブルに乗り、トロリーバスへ乗り継ぎ 15 時 20 分扇沢に着く、駐車場に車は 2,3 台しか止まっていない。静かである。入山時の喧騒が嘘のようである。途中温泉にも入らず一途に帰宅する。諏訪湖で休憩し、中央道は相模湖 I C で降り、横山さんを小田急の本厚木駅で降ろし、大和宅には 20 時 20 分に着く。悪天候のため雄山に登れなかったことを除けばほぼ計画通りに山行し、5 月の雪山を満喫でき大変楽しい山行であった。



黒部平駅にて

以上